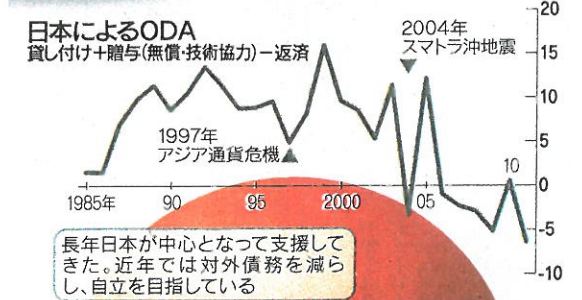


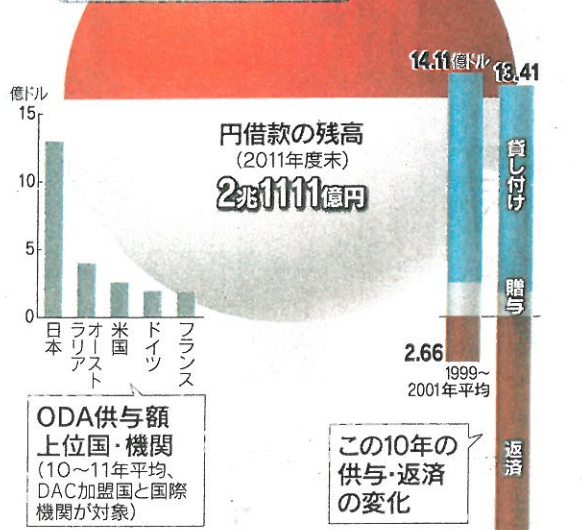
返済進む日本のODA

経済成長で「卒業」見込む

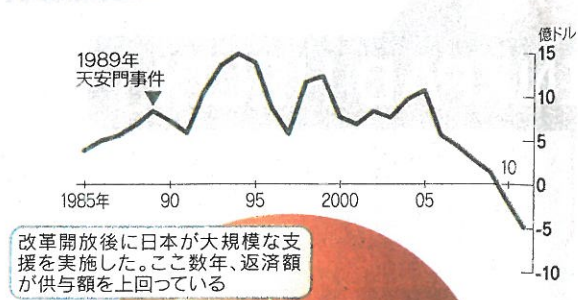
インドネシア



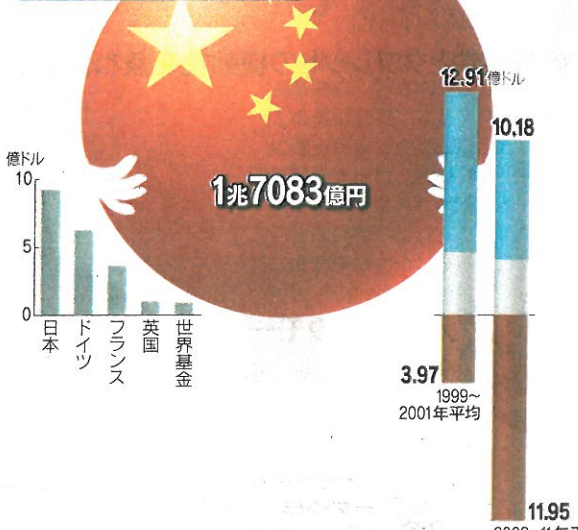
長年日本が中心となって支援してきた。近年では対外債務を減らし、自立を目指している



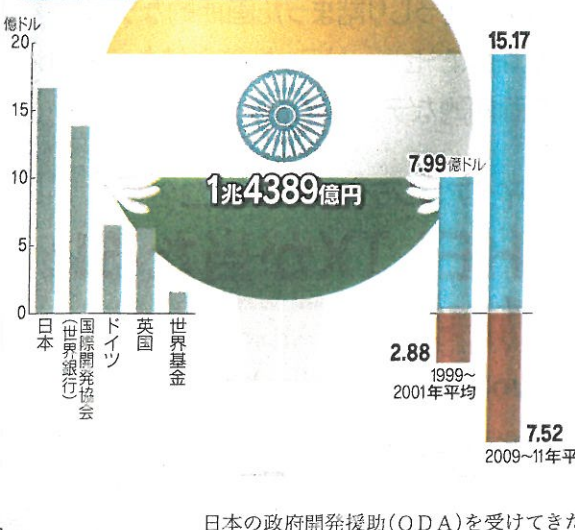
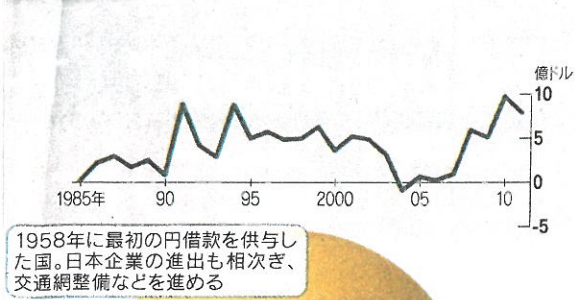
中国



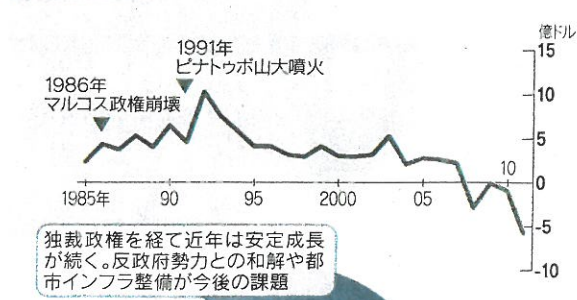
改革開放後に日本が大規模な支援を実施した。ここ数年、返済額が供与額を上回っている



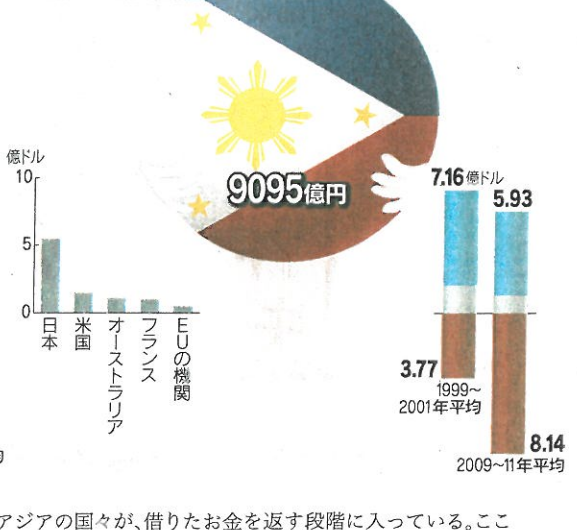
インド



フィリピン

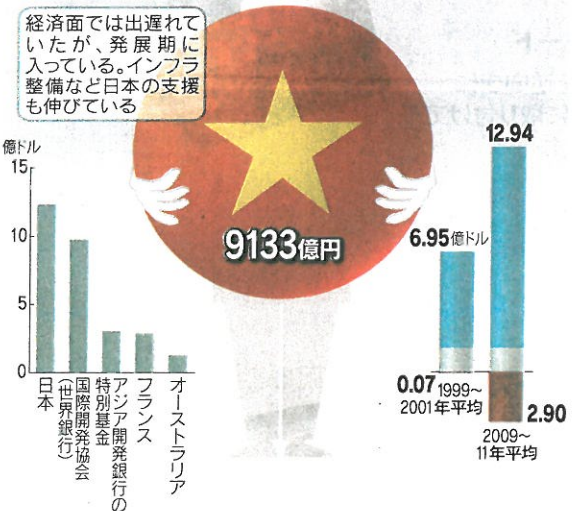
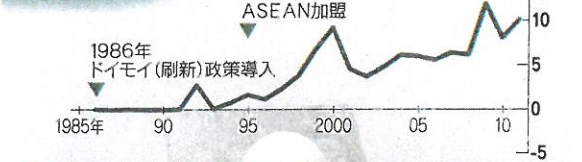


独裁政権を経て近年は安定成長が続く。反政府勢力との和解や都市インフラ整備が今後の課題

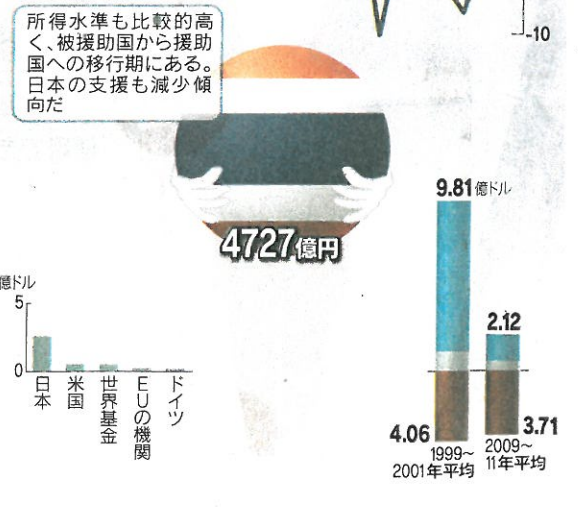
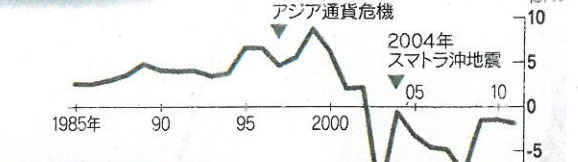


日本の政府開発援助(ODA)を受けてきたアジアの国々が、借りたお金を返す段階に入っている。ここ10年でアジア主要国の返済額は急増。経済成長を背景に、多くの国がODA対象国からの「卒業」を間近に控えている。日本はアジアから返してもらったお金を原資に、アフリカなどへのODAを増やす方針。日本のODA全体に占めるアジアの比率は1970年代に9割以上だったが、2011年には5割を切った。

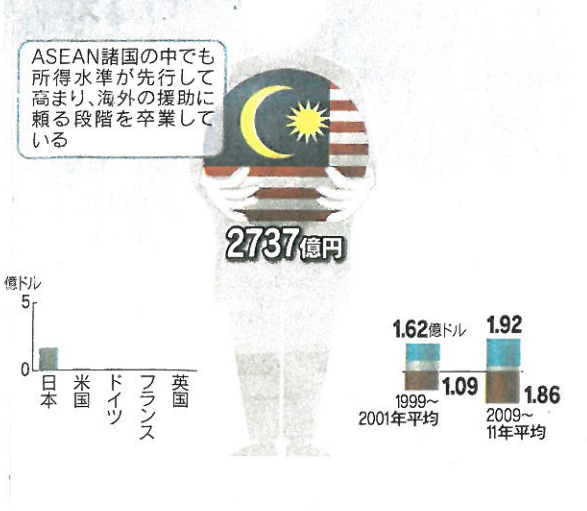
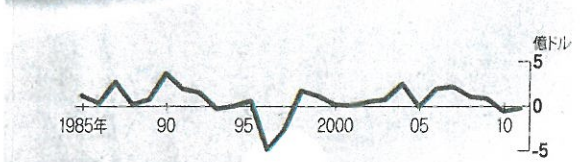
ベトナム



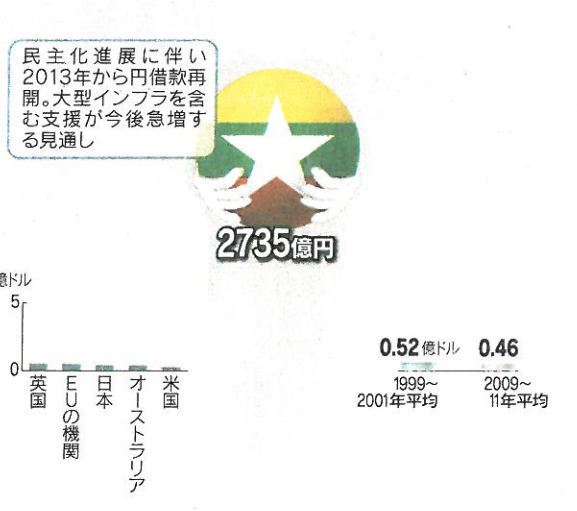
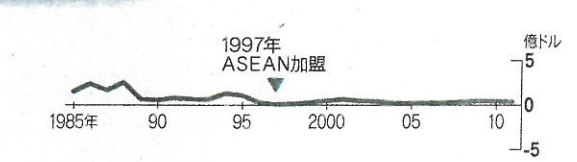
タイ



マレーシア



ミャンマー



(出所) ODAの推移は外務省、ODAの内訳は外務省ODA白書、円借款の残高は国際協力機構(JICA)の年次報告書、各国別供与額・上位国・機関は経済協力開発機構(OECD)の開発援助委員会(DAC)